

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100163		
法人名	社会福祉法人 徳誠福祉会		
事業所名	グループホームおきだて		
所在地	青森県青森市富田5丁目7番21号		
自己評価作成日	平成24年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎月いろいろな行事を計画しており、入居者が出掛けたい所等を会話の中から見つけ出し、外出行事を企画している他、地域住民や家族を行事に招待して、交流を深めている。また、近隣にはデイサービスセンターや保育園があり、遊びに行ったり、行事に参加している。</p> <p>その他、季節感のある装飾品を入居者みんなで作成して飾り、ゆったりとした生活空間をつくることを心掛けている。また、入居者一人ひとりとの会話やふれあいを大切にしている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街にあり、地域に溶け込んでいるホームである。また、ホーム備え付けの洋服ダンスと整理ダンス、ベットは移動できるため、居室のレイアウトを利用者一人ひとりの状況に合わせてことができ、非常に機能的である。</p> <p>職員は、看護師をはじめ、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等の専門職が多く勤務している。そのため、充実した介護計画が作成され、プランの実施やモニタリング等をきちんと行い、利用者の自立支援を支えている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「家庭的で安心、安全な生活」「自立した生活」「人間としての尊厳ある生活」を掲げ、ユニット会議時に復唱し、共有化に努めている。	「家庭的で安心、安全な生活」「自立した生活」「人間としての尊厳ある生活」をホームの理念として掲げており、地域に開かれたホームを目指している。理念はホーム内に掲示している他、ユニット会議等を通じて、全職員で理念の共有化を図ると共に、理念を反映させたサービス提供の実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭等の行事へ招待したり、普段から挨拶や町内のごみ拾いを行う等、地域の方々と交流を図っている。	町内会に加入しており、町内会長が運営推進会議に参加している他、町内の一員としてゴミ拾いを行ったり、日頃から地域の人達と交流を図っている。また、ホームの納涼祭等の行事へ招待したり、避難訓練等にも参加していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事を通じて、認知症の人への理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動内容を報告し、意見を出し合っている。また、出された意見について話し合い、サービスの向上に努めている。	町内会長や家族代表、利用者、地域包括支援センター職員等が参加し、2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。会議では、ホームの活動内容や評価への取り組み等を報告している他、メンバーからも情報を得て、活発な意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を市役所に持参して報告し、情報交換等を行っている。	利用者の入・退所に関する事や生活保護の受給に関わる事等について相談を行っている他、広報やパンフレット、評価結果等を提出し、市との連携を図っている。また、運営推進会議には、地域包括支援センター職員が毎回参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で学んだ事を共有し、ケアの仕方について普段から話し合い、身体拘束につながらないように努めている。また、声掛けの仕方についても職員同士で注意し合っている。	ホーム玄関や居室に施錠することはなく、日常的に身体拘束を行っていない。職員は、身体拘束が及ぼす影響についても研修等で学び、職員間で共有している他、やむを得ず身体拘束が必要な場合に備え、同意書や記録に残す様式を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学んだ事を共有し、虐待のないよう注意し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を設け、全職員で共有しているが、それらを活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に十分な説明を行い、理解を得ている。契約後も疑問な点があれば、その都度説明し、理解してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、利用者や家族等から意見を聞けるような環境づくりに努めている。また、日々のコミュニケーションからも要望を聞けるように努めている。	重要事項説明書や契約書に、苦情に関する内容を記載しており、入所時に説明がなされている他、目安箱も設置している。また、職員は利用者・家族からの要望や苦情を検討し、速やかに対応する体制を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りやユニット会議、職員会議等にて、職員の意見や業務の改善点等の提案を聞く機会を設けている。	月1回のユニット会議や法人の高齢者部門の会議の他、朝の申し送り等において、職員の意見や業務の改善点等を聞く機会を設けている。また、職員から出された意見を検討し、反映される仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、学歴や資格、実績に合った給与水準、外部研修や職場内での勉強会の実施等、職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの学びたい研修内容を把握し、外部研修を受ける機会を確保している。また、研修で学んだ事を共有し、実践につなげるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の部会や懇親会、研修等で他施設と交流する機会を持ち、情報交換等を行うことによって、サービスの質を向上させている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話を大切にし、声掛けや会話の回数を多くすることで、安心感が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と個別に話し合う場を設けており、その後も職員といつでも会話や相談ができるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の意見、要望を聞いた上で介護計画を作成し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の尊厳を大切にしながら、家事等を一緒に行うことで、共に生活するような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密に取り合い、本人の状態や生活状況を伝えている。また、面会に訪れやすい環境づくりにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所を把握し、友人や家族と会う機会を多く提供できるよう努めている。	利用者の生活歴を把握しており、馴染みの美容院や床屋、病院等へ出掛けられるよう支援している。また、家族への電話や手紙のやりとり等、ホーム入所前の人間関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が間に入り、対応している。また、利用者同士でも、一緒にレクリエーションや作業ができるような環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の際、病院に情報提供している。本人や家族の相談を受ける等の支援にも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からコミュニケーションを取ることで、本人の希望や意向を把握するように努めている。	日々のサービス提供の場面で、利用者の観察を行い、一人ひとりの思いを汲み取るように努めている。必要に応じて家族や関係機関からも話を聞き、本人の思いを把握するように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報等により、情報を職員間で共有し、日々の支援に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態や希望により、情報を職員間で共有し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施している。他に、月1回のユニット会議や毎日の申し送りにより、現状を把握し、改善すべき所は検討している。	3ヶ月に1回、ケアプランのモニタリングを行い、個別の目標設定をし、自立に向けた支援を行っている。適切なアセスメントに努め、職員のみならず、家族等の気付きも反映させるよう、介護計画の作成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子、行動、言動を記入し、毎日の申し送りにより、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等をなるべく把握し、できる範囲内で支援するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスや保育園等の行事への参加を通じ、地域の中で楽しみを持ち、暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、精神科や歯科等の受診の際には、本人や家族と話し合い、かかりつけ医の意見や指示を基に受診している。	入所前の医療機関に継続して通院することができる他、ホームの協力医院に変更することもでき、利用者及び家族の希望に応じて受診できるように支援している。ホームの近くに病院が多く、利用者は、希望に応じて選択することもできる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時のバイタル測定や普段の身体状態の確認、本人からの訴えから、異常が見られた場合はすぐに看護師に報告し、適切な処置、受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と密に連絡を取り合うことで、体調不良時の受診や入院が迅速に行えるよう努めている。また、入院時にはお互いに情報交換し合えるような関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしている。また、家族や医師と話し合い、事業所でできることを十分に説明し、支援に取り組んでいる。	看取りの指針があり、希望に応じて、重度化や終末期においても対応する体制を整えている。入所時から、本人や家族と、重度化や終末期についての話し合いを行い、対応を決めている。また、主治医に相談ができ、看取りを希望しない場合は入院することもできるよう連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の方法やAED使用の訓練を定期的に行っている。また、様々な事故や急変時の対応マニュアルを作成し、職員が迅速に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練や連絡網の確認を行い、災害に備えている。また、訓練時には地域の方の協力を得て行っている。	夜間も想定し、年2回総合防災訓練を実施しており、利用者と職員が一緒になって取り組んでいる。災害時における連絡網を整備している他、地域住民や消防署、近隣にある系列の施設職員等からも協力が得られるようになっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルに基づき、一人ひとりの思いを受け止めながら、言葉掛けや対応を行っている。	利用者は「さん」付けで呼び、個人の尊厳を大事にしている。職員は、利用者の個人情報やプライバシーを守るための対応等、日常的なサービス場面においても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話を通して、利用者の希望を聞き、できる限り自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って、1日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や衣類を自由に選べるように対応し、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から好きなものを聞き、メニューに反映している。また、食材の下処理や食卓準備は、利用者と職員が一緒に行っている。	利用者の好き嫌いについて把握しており、苦手な献立については代替食を準備する等の対応を行っている。また、調理の手伝いができる利用者には行ってもらい、片付けも職員と利用者が一緒に行っている。	できる限り職員も一緒に席に着き、利用者と一緒に食事を摂ったり、最初の10分くらいは一緒に席に座る等、利用者が落ち着いた雰囲気の中で食事ができるような取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況や好き嫌いを考慮し、食べやすい工夫を行っている。また、定時の水分補給の他にも、希望時には常に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じたケアにより、口腔内の清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声掛けや誘導したり、排泄のパターンを把握することにより、一人ひとりの自立に向けた支援を行っている。	個別に排泄の記録があり、排泄のパターンを把握し、定時排泄を行ったり、失敗がないよう排泄の自立に向けた支援を行っている。また、できる限りおむつ使用にならないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になった場合は、飲食物等の摂取量を確認したり、工夫して提供することにより、対応している。また、主治医へ相談も行い、服薬での対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の希望に沿った時間や方法を取り入れるように努めている。また、健康状態をきちんと把握し、調整している。	一人ひとりの入浴の好みを把握し、長湯にならないよう、また、無理がないように入浴介助を行っている。マンツーマンで入浴介助を行い、本人が希望すれば同性介助で対応するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望により、居室で臥床したり、ソファでリクライニングを利用し、休息できるよう対応している。その他に、湿度や室温にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を確認し合い、服薬の支援を行っている。薬の変更があった場合には、副作用や用法、用量についての確認、理解に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のコミュニケーションにより、生活歴や趣味、嗜好品等を理解し、気分転換をしている。また、レクリエーション等も取り入れ、過ごしやすい環境となるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や季節により、レクリエーションを外で行ったり、行事等でも買い物に出掛ける等、外出する機会を設けている。	花見やねぶた見物等の季節の行事に出掛けたり、買い物や外食等、日頃から利用者が外出する機会を設けている。移動の手段は本人に合わせ、車いす使用や杖、手引き歩行等、利用者の状況に合わせた支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は施設で行っているが、必要なものは本人や家族へ連絡・確認を行い、買い物へ同行したり、代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する場合は、いつでも電話をかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾品を、職員や利用者で協力して作り、飾っている。	温度や湿度は適切に管理されており、冬はオール電化で乾燥しがちであるため、加湿器を設置している。また、玄関には盆栽を置いたり、リビングには手作りの雪だるまやお雛様等を飾り、季節を感じられるような工夫も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが作業したり、休息したり、利用者同士が会話をする等、それぞれが空間を自由に使い、過ごせるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望に沿って、家具の場所を変えたり、自宅で使用していた物を使用し、居心地良く過ごせるための工夫を行っている。	居室への持ち込みは自由で、仏壇や位牌、写真等を持ち込んでいる方もいる。持ち込みが少ない利用者については、職員と一緒に、本人に合った居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かし、自立した生活を行えるよう、見守りや一部介助にて対応している。		